



®環境省

エコアクション21

認証番号0003071

環境経営レポート

〔第50期：R5.7.1～R6.6.30〕



令和6年9月27日作成



株式会社 小宮山土木

目 次

1. 環境経営方針	1
2. 事業内容	2
1) 事業所名及び代表者氏名		
2) 所在地		
3) 環境保全の責任者及び担当者		
4) 事業内容		
5) 事業規模		
3. 活動組織	3
4. 環境経営目標	4
1) 環境経営目標値		
(1) 事務所		
(2) 作業所		
(3) CO2排出量削減目標値合計		
2) 環境経営計画及び具体的施策		
5. 環境活動の取組結果と評価	7
1) 取組結果		
2) 取組評価		
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	13
7. 環境事業	14
8. 地域環境活動	17
9. 代表者による全体評価	18

1. 環境経営方針

【企業理念】

当社は、地球規模の保全が全人類の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動において環境負荷の継続的低減に努め、持続的に発展できる経済社会の実現に寄与します。

【環境方針】

当社は、建設業という事業活動から原材料の消費、廃棄物の排出などによりともすれば環境破壊を推進してしまう事業活動を行っています。このことを踏まえ、ここに、全社一丸となって環境理念に基づく以下の環境活動を実施し、環境負荷の継続的低減を推進します。

1. 廃棄物の分別・リサイクルを推進し、減量化に努めます。
2. 環境関連法規を遵守します。
3. EMSの継続的な改善と事業活動を実施し、環境負荷の低減に努めます。
4. 化学物質の低減により環境汚染の予防に努めます。
5. 環境製品の販売、生産等により環境に配慮した工法・サービスを提供します。
6. 協力会社に対しても環境方針・環境目標を周知し環境活動への協力を得るよう努めます。
7. 当社の環境方針、環境目標及び環境活動はホームページ等を利用し一般に公開します。

2007年11月20日制定

2019年10月1日改定

長野県北佐久郡立科町大字牛鹿1616-1

株式会社小宮山土木

代表取締役 佐藤 謙也

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

事業所名 株式会社小宮山土木
代表取締役 佐藤 謙也

2) 所在地

〒384-2308
長野県北佐久郡立科町大字牛鹿1616-1
TEL:0267-56-1299 FAX:0267-56-3522

3) 環境保全の責任者及び担当者

環境管理責任者 瀬下 勝
担当者 小宮山 聡次郎
連絡先 電話・FAX所在地と同じ
E-mail:info@komiyama.jp
HPアドレス:http://komiyama.jp/

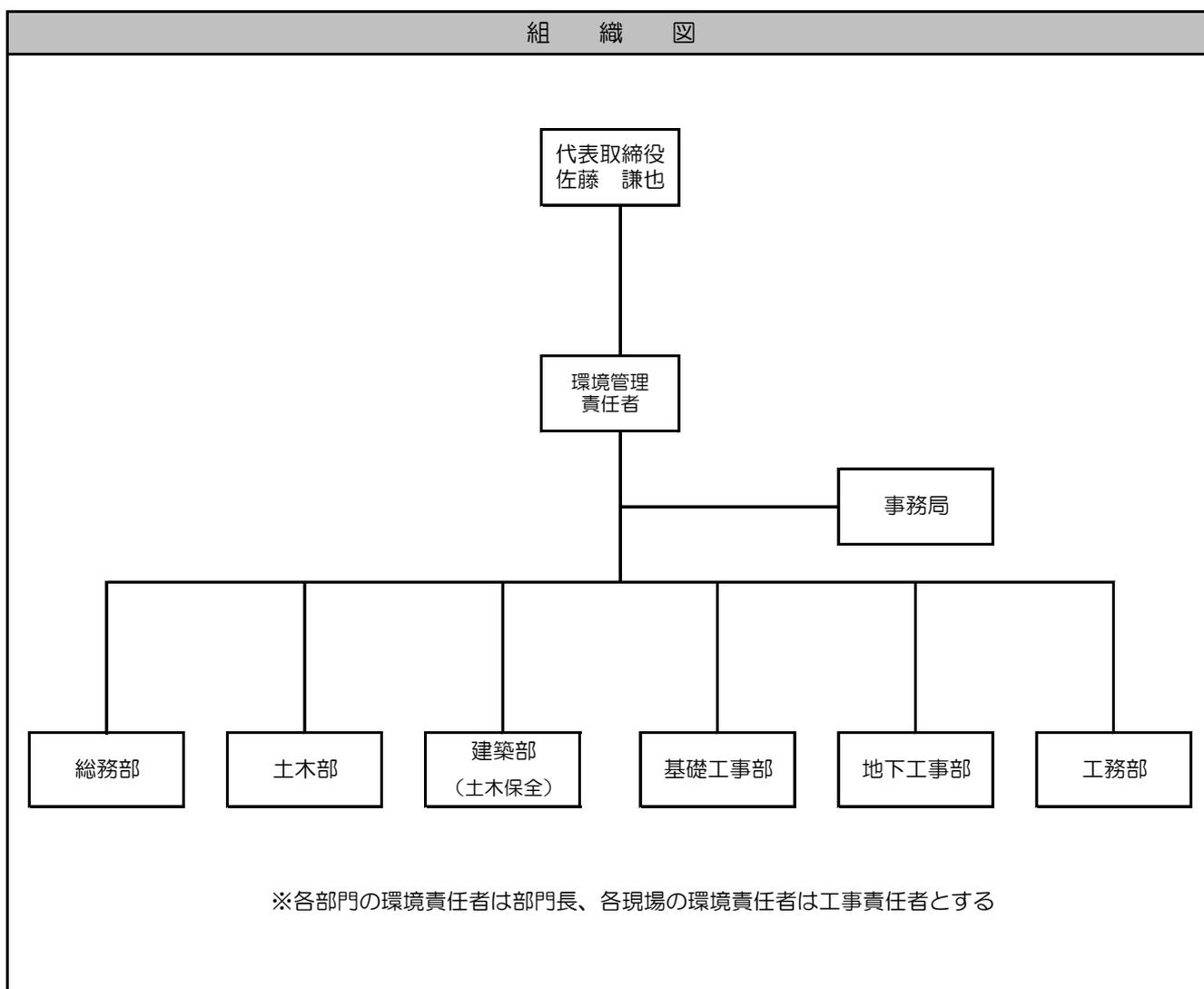
4) 事業内容

土木工事の施工
建築工事の設計・施工

5) 事業規模

規模	単位	48期 (R3.7~R4.6)	49期 (R4.7~R5.6)	50期 (R5.7~R6.6)
売上高	百万円	2,800	2,400	3,000
総人員	人	70	70	70
床面積 事務所	m ²	402.9	402.9	402.9

3. 活動組織



【 各 責 任 者 及 び 実 施 事 項 】

責任者	実施事項
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境経営に関する方針を定め、それを誓約する。 ■ 環境への取組の方向性を明示し、全従業員に周知する。 ■ 環境経営システムが有効に機能しているか、取組みは適切に実施されているか評価し、見直しをする。
環境管理責任者 担当者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 具体的な環境への取組みに関する環境目標、環境活動計画を策定し、社員に周知する。 ■ 環境目標の達成状況を確認し、必要に応じて是正処置や予防処置を指示する。 ■ 各部門責任者に対して必要な計画、指示、指導等を行う。 ■ 活動計画・活動実績を取りまとめ、代表者による見直し資料を作成する。
部門長・工事責任者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境管理責任者の下、必要な計画、指示、指導、教育・訓練を実施する。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境方針、環境目標を基本に定められた活動計画に従い活動に取り組む

4. 環境経営目標

1) 環境経営目標値

目標値については、ベースを48期（2021.7～2022.6）の実績値とし、3年間(49期～51期)の目標を下表の通り策定した。（目標値は事務所、作業所と分けて管理する）

《目標値》

(1) 事務所・宿舎

項目	管理単位	単位	48期実績	49期目標	50期目標	51期目標
			(2021.7～2022.6)	(2022.7～2023.6)	(2023.7～2024.6)	(2024.7～2025.6)
①電気	総使用量	kWh	101,874	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	38,610			
②液化石油ガス (LPG)	総使用量	Kg	1,472	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	4,419			
③ガソリン	総使用量	L	16,245	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	37,715			
④軽油	総使用量	L	60	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	157			
⑤灯油	総使用量	L	5,431	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	13,534			
⑥紙使用量	総使用量	k g	1,079	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
⑦水使用量	総使用量	m ³	688	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
⑧廃棄物排出量	総排出量	t	0.1	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減

※2020年（令和2年）中部電力二酸化炭素調整後排出係数0.379kg-CO₂/kWhを使用

(2) 作業所

項目	管理単位	単位	48期実績	49期目標	50期目標	51期目標
			(2021.7~2022.6)	(2022.7~2023.6)	(2023.7~2024.6)	(2024.7~2025.6)
①電気	総使用量	kWh	188,304	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	71,367			
②ガソリン	総使用量	L	70,304	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	163,222			
③軽油	総使用量	L	169,612	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	445,120			
④灯油	総使用量	L	29,020	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	72,316			
⑤アセチレン	総使用量	Kg	179	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	606			
⑥廃棄物排出量	総排出量	t	547.7	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減

※工事では化学物質を使用しています。工種により変動するので適正使用としています。

※2020年（令和2年）中部電力二酸化炭素調整後排出係数0.379kg-CO₂/kWhを使用

※産業廃棄物の分別を徹底し、100%リサイクルを目指します。

(3) CO₂排出量削減目標値合計

	単位	48期実績	49期目標	50期目標	51期目標
		(2021.7~2022.6)	(2022.7~2023.6)	(2023.7~2024.6)	(2024.7~2025.6)
事務所	kg-CO ₂	94,435	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減	対前年比 1%削減
作業所	kg-CO ₂	752,631			
合計	kg-CO ₂	847,066			
売上げ単位当り	kg-CO ₂ /百万円	303			

2) 環境経営計画及び具体的施策

① 電気使用量の削減
<ul style="list-style-type: none">・場所や時間による、不要な電気・電源のOFF・残業及び夜間照明は必要最小限にする
② 燃料使用量（液化石油ガス）の削減
<ul style="list-style-type: none">・事務所内の冷暖房設定を適正化する（夏季：28℃以上、冬季：25℃以下を標準とする）・エアコンの終業時の消し忘れを無くする。
③～④ 燃料使用量（ガソリン・軽油）の削減
<ul style="list-style-type: none">・工事車両、重機等のアイドリングストップの励行・エコドライブの励行
⑤ 紙使用量の削減
<ul style="list-style-type: none">・両面コピー、両面印刷の徹底・裏紙の活用・資料の保管はPDFを利用し、データとして保管する。
⑥ 水使用量の削減
<ul style="list-style-type: none">・生活用水は、水を出しっぱなしにしない等節水に努める
⑦ 廃棄物発生の抑制
<ul style="list-style-type: none">・ゴミの分別を徹底し、リサイクルに努める・仕入れ数量の適正化・化学物質の低減に努める
⑧ 環境に配慮した工法・サービスの提供
<ul style="list-style-type: none">・ヘッドバー工法・遠心力吹付工法・クリッド工法杭・低I初打 -コスト材料の提案
⑨ 地域環境への貢献
<ul style="list-style-type: none">・環境ボランティア活動への積極参加・地域周辺のゴミ拾い

5. 環境活動の取組結果と評価

1) 50期取組結果

(1) 事務所・宿舍

項目	管理単位	単位	49期実績値	50期目標	50期実績値	対目標値比	評価
①電気	総使用量	kWh	88,104	87,223	84,859	97%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	33,391	33,058	32,162		
②液化石油ガス (LPG)	総使用量	Kg	525	520	459	88%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	1,576	1,561	1,378		
③ガソリン	総使用量	L	14,606	14,460	14,133	98%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	33,910	33,571	32,812		
④軽油	総使用量	L	92	91	72	79%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	241	239	189		
⑤灯油	総使用量	L	4,319	4,276	2,281	53%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	10,763	10,655	5,684		
⑥紙使用量	総使用量	kg	1,111	1,100	679	62%	○
⑦水使用量	総使用量	m ³	732	725	930	128%	×
⑧廃棄物排出量	総排出量	t	0.0	0.0	0.0	0%	○

(評価 ○：達成 ×：未達成)

(2) 作業所

項目	管理単位	単位	49期実績値	50期目標	50期実績値	対目標値比	評価
①電気	総使用量	kWh	101,485	100,470	80,792	80%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	38,463	38,078	30,620		
②ガソリン	総使用量	L	64,687	64,040	63,563	99%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	150,181	148,679	147,572		
③軽油	総使用量	L	83,424	82,590	122,769	149%	×
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	218,933	216,744	322,188		
④灯油	総使用量	L	19,841	19,643	13,428	68%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	49,442	48,949	33,462		
⑤アセチレン	総使用量	Kg	151	149	66	44%	○
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	511	504	223		
⑥廃棄物排出量	総排出量	t	4,336.0	4,293	1,320.6	31%	○

(評価 ○：達成 ×：未達成)

(3) 自社太陽光パネル発電量

	管理単位	単位	49期実績値	50期実績値
太陽光発電	総発電量	kWh	184,145	184,641
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	69,790	69,979

(4) CO₂排出量削減目標値合計

	単位	49期実績値	50期目標	50期実績値	対目標値比	評価
事務所	kg-CO ₂	79,881	79,084	72,225	91%	○
作業所	kg-CO ₂	457,530	452,954	534,065	118%	×
合計①	kg-CO ₂	537,411	532,038	606,290	114%	×
売上げ単位当り	kg-CO ₂ /百万円	224	222	202	91%	○
自社太陽光発電量②	kg-CO ₂	69,790	—	69,979	—	-
差引合計①-②	kg-CO ₂	467,621	—	536,311	115%	×

(評価 ○：達成 ×：未達成)

※参考

	CO ₂ 排出係数	単位発熱量
電気(中部電力R2)	0.379	-
液化石油ガス(LPG)	0.0598	50.2
ガソリン	0.0671	34.6
軽油	0.0687	38.2
灯油	0.0679	36.7
アセチレン	0.0673	50.3

環境活動の取組結果の評価

活動計画	活動結果	今後の施策
<p>1. 電気使用量の削減</p> <p>①場所や時間による不要な電気、電源のOFF</p> <p>②残業及び夜間照明を必要最小限にする</p> <p>③事務所内の冷暖房温度の適正化</p>	<p>①休憩時間などの消灯はこまめに実施している。</p> <p>②随時、事務所内の照明をLEDに交換している。</p> <p>③夏場と冬場は夜間もつけっぱなしにしており、室温の維持に努めている。</p>	維持継続実施
<p>2. 燃料使用量の削減</p> <p>①工事車両、重機等のアイドリングストップの励行</p> <p>②エコドライブの励行</p>	<p>①現場での重機降車時のアイドリングは見られなくなった。</p> <p>②社有車におけるハイブリッド車の割合も少しずつ増えている。</p>	維持継続実施
<p>3. 紙使用量の削減</p> <p>①両面コピー、両面印刷の徹底</p> <p>②裏紙・再生紙の活用</p> <p>③PDFの利用</p>	<p>①両面印刷は実施されてきている</p> <p>②裏紙の活用はほぼ実施されている</p> <p>③注文書の電子化を実施した。</p>	維持継続実施
<p>4. 水使用量の削減</p> <p>生活水は出しっぱなしのないように節水に努める</p>	節水はしているが、建物の老朽化から、漏水箇所が発見された。	維持継続実施
<p>5. 廃棄物発生の抑制</p> <p>①仕入れ数量の適正化</p> <p>②ごみの分別を徹底し、リサイクル化に努める</p> <p>③化学物質の低減に努める</p>	<p>①仕入れに関しては、現場での材料検収があるため、ロット単位での仕入れの場合は必要以上になってしまう場合がある。期限内であれば他現場で余った材料でも使用できるよう発注者側でも考えていただきたい</p> <p>②分別、リサイクルは適宜実施された</p> <p>③工法の多様化に伴い減量化できていないのが現状である</p>	維持継続実施
<p>6. 環境に配慮した工法・サービスの提供</p> <p>①ヘッドバー工法</p> <p>②遠心力吹付工法</p> <p>③クリット工法杭</p> <p>④低エネルギーコスト材料の提案</p>	別紙	<p>①2,000千円で目標維持</p> <p>②100㎡で目標維持</p> <p>③50本に目標変更</p> <p>④「省エネルギー対策工事の提案」に目標維持</p>
<p>8. 地域環境への貢献</p> <p>①環境ボランティア活動への積極参加</p> <p>②地域周辺のゴミ拾い</p>	2023.10.1国道142号線ボランティア清掃（雨天の為中止）	維持継続実施

別紙 環境に配慮した工法・サービスの提供取組結果

項目	単位	50期目標	50期実績値	対目標値比	評価
ヘッドバー工法	千円	2,000	500	25%	×
遠心力吹付工法	m ²	100	106	106%	○
クリット工法杭	本	60	38	63%	×
省エネルギー対策工事 の提案	件	2	1	50%	×

(評価 ○：達成 ×：未達成)

3) 結果の考察

(第50期R5年7月～R6年6月までの活動に基づき考察しました)

事務所

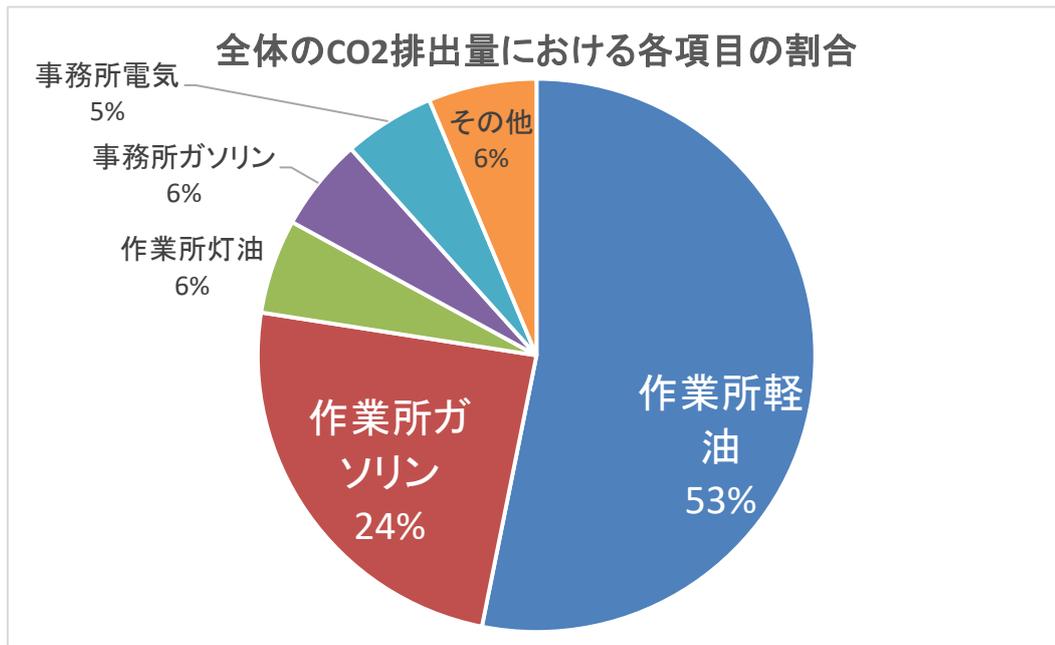
事務所の取組結果としては、水を除いて目標達成となった。
事務所の合計で見ても目標達成ということになった。
電気（照明や空調）とガソリン（営業車）は目標値をわずかに下回った程度だったが、灯油の使用量を前年の半分近くに抑えられたことが（気温の関係か）達成の要因であると考えられる。
水道に関しては、使用量の異常な増加が認められたため漏水の可能性を指摘されている。



作業所

作業所の活動については、軽油以外すべての項目で目標を達成することができた。
今期も解体工事の大型案件があったため、重機使用の割合が大きくなり、軽油が目標値に対して149%と大きくオーバーしてしまった。





全体

会社全体で見ると、CO2の排出量は、目標値比に対して114%と達成することができなかった。しかし売上げ単位当たりで見ると91%となり目標を達成した。当社のCO2排出量は現場での化石燃料の使用が全体の8割を占めており化石燃料の使用量が結果を大きく左右する。今期も目標達成した項目は12個中10個と悪い結果ではないが、現場軽油が突出して多くなってしまい全体排出量としては増加してしまった。そのようなことから比較は難しいが、化石燃料の使用方法の工夫が今後求められる。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の企業活動に伴い適用される環境関連法規等は、次表のとおりです。
環境管理責任者 瀬下 勝が中心となり法規の遵守事項についてチェックを行い、現在及び過去3年間問題の無いことを確認いたしました。(R6.9.27確認)

また、同様に関係機関及び近隣住民からの指摘、苦情、訴訟などは1件もございませんでした。

環境関連法規リスト

法規制等の名称	該当する活動及び要求事項	順守状況
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出 多量排出事業者(排出量1,000 t 以上)は処理計画書及び同実施書の作成、報告 	分別状況確認：問題なし 廃棄物置場：良好 マニフェスト確認：保管OK 回付遅れなし 契約書・許可証：整備OK 計画書・報告書の提出：6/未OK
長野県廃棄物の適正な処理の確保に関する条例	準多量排出事業者(排出量500 t 以上1,000 t 未満)は処理計画書及び同実施書の作成、報告	計画書・実施書の提出6月末OK
リサイクル法	指定副産物の発生抑制（施工方法、資材選択） 再利用、再生利用、再資源化努力 責任者の配置	適正処理
排出ガス対策型建設機械普及促進規程	排出ガス対策型建設機械であることの確認	適正使用
オフロード法	建設機械などの排出ガス基準適合表示	適正処理
騒音規制法	対象特定建設業の届出、規制値の遵守	期間中該当なし
振動規制法	対象特定建設業の届出、規制値の遵守	期間中該当なし
大気汚染防止法	対象特定工事の届出、作業基準	期間中該当なし
水質汚濁防止法	知事への届出、排水基準測定の実施・記録	期間中該当なし
下水道法	届出、沈砂池等設備の設置	期間中該当なし
河川法	届出、沈砂池等設備の設置	期間中該当なし
消防法	軽油・灯油の指定数量保管の届出、基準	適正処理
建築基準法	石綿含有建材、加此 [®] リ [®] 添加建材の使用禁止 ホルムアルデヒドに関する規制	適正処理
長野県景観条例	環境保全と育成	期間中該当なし
労働安全衛生法	安全衛生責任者、有機溶剤取扱責任者、特定化学物質等作業主任者の選任	期間中該当なし
石綿予防規則	石綿飛散防止、アスベスト使用建築物解体・除去工事の届出、作業記録の保管	適正処理
粉じん障害防止規則	粉じん装置の設置届、定期検査	期間中該当なし
土壌汚染防止法	土対法に基づく調査、処理	期間中該当なし
悪臭防止法	悪臭の生ずる物の焼却の禁止	期間中該当なし
高圧ガス保安法	高圧ガスボンベ使用時 危険時の措置と届出	期間中該当なし
フロン排出抑制法	第一種特定製品の管理者 3か月に1回簡易点検	適正処理

7. 環境事業

当社では環境に関する以下の事業を行っています。

1) 太陽光発電の設置・運用

社屋屋上に太陽光発電設備を設置し、電力会社と「再生可能エネルギーからの電力需給契約」をむすび、運用しております。



2) 紫外線・赤外線カットコーティング 「UI-シールドα」の施工業務

塗るだけで近赤外線を50%カットし、室内温度を2℃～5℃低減、最大で20%の省エネ※1を可能にする窓ガラス用コーティング剤の施工を行っております。 ※1 理論値です



当社経理室試験施工風景



3) 電気自動車用急速充電器の設置・施工業務

将来の電気自動車の普及を見据え、電気自動車用急速充電器を自社施工、設置しました。
今後、ご依頼があれば設置・施工業務を行っていきます。

当社設置事例



4) 地中熱を利用した冷暖房設備の導入

地中熱を利用した冷暖房設備の施工・販売展開を図っています。

また、社内の冷暖房に一部導入を行い、消費電力の削減を図っています。



冷温水熱交換システム



パネルヒーター



モニター

6) ソーラーパネル用基礎杭の施工・販売展開

ソーラーパネル用基礎杭の施工・販売展開を図っています。

(ソーラーパネルの基礎に杭を使用することで、コンクリート工事が不要となるため、型枠等の残材及び撤去時のコンクリート殻など廃棄物の削減に役立ちます。)



社内展示場



基礎杭

7) 長野県SDGs推進企業として登録されました。



8. 地域環境活動

1) 会社周辺地域のごみ拾い

会社周辺の町道・県道沿いのごみ拾いを定期的に行っております。

(令和5年度は雨の為中止となりました。写真は令和4年度のごみ拾いの様子)



2) 緊急災害資材置場の設置

緊急災害時等の対応が出来るよう緊急災害資材置場を設置し、緊急用の資材を保管しています。



9. 代表者による全体評価と見直し・指示

当期における日本経済は、雇用・所得環境が改善し、日経平均株価が平成バブル前の最高値を超えるなど明るい兆しが見えたものの、ウクライナや中東地域をめぐる情勢に加え、円安等の影響による物価上昇のほか、金融資本市場の変動など先行きに対する不透明感が高まりました。

建設業界におきましては、政府建設投資が前年度を上回り、民間建設投資も企業の設備投資意欲が引き続き堅調であったことから、建設投資は総じて増加しました。

このような情勢下におきまして当社は、主力事業の絶え間ない改善を実践し、選別受注による採算性の向上に取り組んでまいりました。

そのような中でのエコアクション21の活動ですが、ほとんどの項目で目標の達成をすることができましたが大規模な解体工事の受注により、現場での建設重機の稼働率が上がり軽油の使用量が大幅に増加してしまい、二酸化炭素の排出量としては前年を大きく上回ってしまいました。

今、建設業界は技能労働者の減少という課題に直面し、省力化から省人化へとシフトチェンジしています。そんな状況下において、建設機械の性能や技術の進歩はどんどん加速していきます。

DX推進を軸とした企業の在り方を変革する時代の波に乗り遅れることのないよう、しっかりと設備やヒトへ投資をしていくことが、必ずや最終的に化石燃料や電気の使用量の削減につながると確信しています。

株式会社小宮山土木 代表取締役 佐藤 謙也
